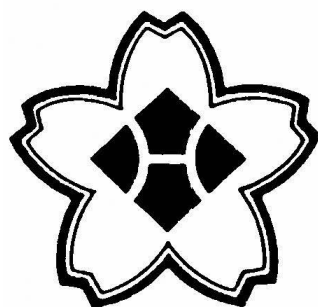


令和 8 年度

「運営に関する計画」



大阪市立矢田東小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立矢田東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題令和7年度全国学力・学習状況調査から

- ・国語・算数・理科ともに全国平均・大阪市平均を下回った。前年度に少し差が開いたが今年度はまた近づくことができた。国語科の正答率は3教科で最も大阪市・全国平均に近かった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」については大阪市・全国を上回り「我が国の言語文化に関する事項」についてはほぼ同じであった。平均無回答率は前年度よりも大幅に減った。算数科では「C測定」が最も正答率が高かった。他の領域については大阪市・全国と比較すると少し差が開く結果となった。平均無回答率については前年度よりも減少したが、「○は△の何倍か」、といった問題の記述式問題で無回答率が25%と高かった。しかしながら、国語・算数と2教科において無回答率が減少したことは、各問題に粘り強く取り組む姿勢がみられるようになったと考えられる。また理科においては、A区分(「エネルギー」「粒子」を柱とする領域)において無回答はほぼなく、B区分(「生命」「地球」を柱とする領域)において、理由や条件を書き表す記述式の問題においての無回答率が高くなってしまった。国語・算数において、正答率の層分布が右寄りの正規分布になってきている。また、これまで学校独自の取組として「矢田東漢字・計算クライミング」という漢字と計算に特化した、基礎基本の学習に力を入れて取り組んでいる。しっかりと学力の土台(基礎学力)を固め、学テや経年調査などの応用問題にも対応できる力が身につくことが、各テストの基本問題の正答率の高さに表れてきた。

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から

- ・令和7年度は、前年度から50m走に重点を絞って体力向上に取り組んでいる。5年生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男子は全体的に全国・大阪市の平均値より下回る記録で、女子は50m走とソフトボール投げで全国・大阪市平均を上回る結果となった。男子も50m走、ソフトボール投げでは、全国・大阪市平均近い結果を出すことはできたが、全体的に体力合計得点では下回ることとなってしまった。5年生でも顕著な差がみられたのは、長座体前屈・反復横跳びの2種目である。特に長座体前屈においては男女ともに、全国・大阪市平均から6～9cmと差が開いている。児童の柔軟性については全ての運動にも関わる分野でもあるので身につけておきたいところである。他の学年の体力テストの結果からも、本課題については取り組んでいくべきであると考えられる。
- ・令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査のアンケートの「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問には、男女ともに肯定的に回答している率が大変高い(男子96%・女子88%)。ただ、「体育の授業は楽しいですか」の質問には、男子は「楽しい」の回答は86.4%であったのに対して、女子は「楽しい」は64.7%であった。「やや楽しい」を入れても70.6%である。「どんなことがあったら体育の授業が楽しいと感じますか」という質問に対して「できなかったことができるようになった時」「いろんな種目を体験したとき」の回答が90%あった。体育の授業について、工夫改善の余地はまだあると考えられる。

令和7年度大阪市小学校学力経年調査から

- ・3～6年のすべての学年で昨年度と比較(※3年生は昨年度の3年生との比較)したところ、市平均を上回ることではできなかった。しかし学年ごとの経年で見ると、4教科の標準化得点は昨年度は下がったが、今年度は維持したか少し上回る教科もあった。この2年ほ

ど国語・算数において経年で細かく分析したところ、特に国語の基礎問題において確実に正答率は上がってきている。基礎学力の定着が徐々に見えてきていると考えられる。

- ・正答率が市平均の7割に満たない児童(区分Ⅳ)の割合は、令和6年度は33.5%であったが、令和7年度は26.8%と大幅に減少した。
- ・児童質問紙においては、「学校に行くことは楽しい」に対する質問の肯定的回答は、大阪市平均が83.1%に対して本校児童は89.9%、「自分にはよいところがある」は大阪市が82.6%に対して81.9%、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」は63.9%に対して60.5%となっている。「学校に行くことは楽しい」は大幅に大阪市平均より上回っているが、「困りごとや不安があるときに…」の項目については若干差があるように感じられる。いざという時に、学校では誰にでも何でも気軽に相談できる、という安心感を更に子どもたちに持たせてあげられるようにしておきたい。

学校の教育活動全体から

- ・児童の「基礎学力」の定着と「自主性」に重点を置いた「矢田東漢字・計算クライミング」を継続して実施している。取組内容や評価方法などについて教員間で話し合い、児童の実態に合わせたもの、興味関心を持つものを模索し実施している。継続的に実施していることで成果が出はじめ、また課題を見つけることができている。今後も継続的に実施し、それぞれの学年での基礎基本の学力の定着を図っていききたい。
- ・児童の学習用端末の活用は日常的に行われ、使用回数は確実に増えている。様々なアンケートにおいても「タブレットやパソコンを使った授業は楽しいですか」という質問に対して肯定的回答は90%以上である。今後は「楽しい」だけでなくタブレットの活用方法について、より効果的な取組について検討していき更に活用を深めていきたい。
- ・これまで読書活動の推進を継続的に行ってきたことで、児童が本に触れる機会が増え読書環境は大幅に改善された。その成果は経年調査のアンケートだけでなく、学力テストや児童アンケート・保護者アンケートなども含めて確認できている。全体的にみて、「読書が好きである」という質問への肯定的な回答は、概ね80%以上ある。毎年高学年の読書に対する意欲も肯定的回答は少しずつ上がっている。これまでの継続的な推進活動に成果がみられてきたと思われる。
- ・普段の休み時間の運動場の様子や、児童アンケート・経年調査などから、本校の児童は「運動が好き」な児童は多いといえる。しかしながら、これまでスのポーツテストでみられる数値的な結果は、大阪市や全国平均には届いていないことが多かった。「好き」であるが「結果」として表れていない要因としては、それぞれの動きについて「正しい」動きが身につけていないことが考えられる。今後も指導者の指導力向上と体育の授業の充実を図って、児童の体力の維持・向上だけでなく、「体の正しい動き」についての指導法も工夫していききたい。
- ・児童のきまりに対する意識は高まってきているが、通学帽子の着用や持ち物、身だしなみ等の学校生活における基本的なことについては、課題が見られる児童も少なくない。児童一人ひとりの課題については、家庭的な背景も含めスクリーニング会議Ⅰなどで教員間で共通理解を図り、継続した指導を教員全体で行っていく。今後も児童の良いところを認めつつ、アンケートの結果だけでなく、実質も伴った成果として伸ばしていけるような声かけや指導が必要である。
- ・これまでも、ゲストティーチャーを招いた出前授業や、学習の場や方法を工夫した体験活動を行うことができた。また、教職員の研修活動についても、授業力の向上に向けて公開授業を実施したり研究会に出向いたりして、さらに努めていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和11年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合(R7:88.6%)を90%以上にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:77.1%)を、80%以上にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和7年度(80%)より5%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和11年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において比較し、いずれの学年も(R7:3年0.75・4年0.85・5年0.84・6年0.83より)0.03向上させる。
- 令和11年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において比較し、いずれの学年も(R7:3年0.77・4年0.86・5年0.72・6年0.77より)0.03向上させる。
- 令和11年度の小学校学力経年調査の国語と算数の区分Ⅳ(平均正答率7割以下)の児童の割合をいずれの学年も令和7年度(3年66%・4年72%・5年83%・6年74.5%)73.9%より5%減少させる。
- 令和11年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合(R7:90.3%)を、93%以上にする。
- 令和11年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合(R7:91.9%男子95.6%・女子88.2%)を95%以上にする。
- 令和11年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を令和7年度(48.0ポイント:男子48.6・女子47.42)より5ポイント増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令11年度末の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」により、毎月の教員の1人当たりの平均時間外勤務時間を20時間以下にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:89.9%)を、90%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- ③ 大阪市学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(R7: 3年 0.75・4年 0.85・5年 0.84・6年 0.83より)より0.01以上向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(R7: 3年 0.77・4年 0.86・5年 0.72・6年 0.77より)より0.01以上向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査の国語と算数の区分Ⅳ(平均正答率7割以下)の児童の割合をいずれの学年も令和7年度(3年 66%・4年 72%・5年 83%・6年 74.5%)73.9%より1%以上減少させる。
- ④ 小学校学力経年調査・児童アンケートの「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える児童の割合(R7:90.3%)を、1%以上増加させる。
- ⑤ 令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査・児童アンケートの「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:91.9%)を92%以上にする。
- ⑥ 特に課題と考えられる長座体前屈を、令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子:27.5cm・女子:29.38cm)より5cm伸ばす。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を67%以上にする。
- ② 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」により、毎月の教員の1人当たりの平均時間外勤務時間を20時間以下にする。

(様式2)

大阪市立矢田東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:89.9%)を、90%以上にする。 ② 小学校学力経年調査の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 ③ 大阪市学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%より増加させる。	未

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 家庭との連携を密に行い、生活指導案件に対して早期解決を図る。 (1-1~4) 指標 児童アンケートにおいて「学校は楽しいですか」という項目に対して、肯定的に回答する児童(R7:89.9%)を令和7年度以上にする。 91%	B
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 全学級で、毎月末に、いじめの認知件数と解消した件数などをまとめ、校内で共通理解を図り、組織的な対応を行う。 (1-1いじめへの対応) 指標 児童アンケートの「友だちのいやがること(いじめや仲間はずれ)をしないように気を付けて行動できていますか」について、肯定的回答の割合(R7:94%)を94%以上にする。 93%	C
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 全学級で、毎月末に、いじめの認知件数と解消した件数などをまとめ、校内で共通理解を図り、組織的な対応を行う。 (1-1いじめへの対応) 指標 令和8年度の小学校学力経年調査・児童アンケートの「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 75%	C

取組内容④ 「特別の教科」道徳、道徳教育の充実を図り、自己肯定感・有用感を持てるようにする。 (2-1 道徳教育の推進)	C
指標 児童アンケートの「道徳で学んだことは役に立っていますか。」についての、肯定的回答の割合（R 7:9 2%）を9 0 %以上にする。 8 8 %	
取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 「特別の教科」道徳、道徳教育の充実を図り、自己肯定感・有用感を持てるようにする。 (2-1 道徳教育の推進)	A
指標 児童アンケートにおける「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%より増加させる。 8 4 %	
取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 年間を通じて複数回、児童の実態に合った体験的な学習や、ゲストティーチャーによる授業を実施するなど、体験活動の充実を図る。 (2-2 キャリア教育の充実)	A
指標 児童アンケートや経年調査の「将来の夢や目標を持っていますか」についての肯定的回答の割合（R 7:児:89.5%・経:89.4%）を8 5 %以上にする。 9 4 %	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①全学年、多くの児童が学校生活に慣れ、異学年交流などの様々な活動を楽しみながら落ち着いて登校できている。学級の様子も非常に安定している。一方で、「学校が楽しくない」と感じている児童が一定数いるため、家庭や関係機関と密に連携を図りながら早期解決に向けた対応を進め、全ての児童がより安心して楽しく通える環境づくりに取り組んでいる。 ②けんかや生活指導案件はすぐに指導し、日頃の積み重ねやルール of 徹底を図る一方で、善悪の判断や相手の気持ちへの配慮、自己肯定感の低さなどに課題が見られる学年もある。毎月スクリーニング会議を行い校内で共通理解を図ることで、教職員全員が課題のある児童を理解し対応を進めている。 ③児童アンケートの数値は1年生9 5 %でA、2年生7 8 %でC、3年生8 1 %でB、4年生7 6 %でC、5年生5 1 %でC、6年生6 7 %でCだった。全体としては7 5 %で目標を5 %下回っている。認知したいじめの組織的な対応はできている。 ④児童アンケートの数値は1年生は9 2 %でB、2年生は7 9 %でC、3年生は8 8 %でC、4年生は9 8 %でA、5年生は8 1 %でC、6年生は9 5 %でA。全体としては8 8 %でわずか2 %目標を下回っている。道徳、道徳教育の充実を図ることができている。	

⑤児童アンケートの数値は１年生は９２％でＡ、２年生は８４％でＢ、３年生は９１％でＡ、４年生は９１％でＡ、５年生は７０％でＣ、６年生は７６％でＣ。全体としては８４％で目標を４％上回った。

⑥児童アンケートの数値は１年生１００％でＡ、２年生８９％でＢ、３年生９０％でＡ、４年生９８％でＡ、５年生８１％でＣ、６年生９２％でＡ。全体としては９２％で目標を７％上回っている。体験的な学習やゲストティーチャーによる授業など、各学年積極的に取り入れることができている。

改善点

①低学年では、学習を通じた達成感を育むとともに、児童の変化を見逃さずこまめな声かけを継続して安心感を高めていく。中学年では、楽しんで関係づくりができる環境を整えて確実な定着を図りつつ、一貫したブレない指導を徹底するようにする。高学年では、楽しい授業や行事の充実で学校生活を盛り上げながら、自分の行動に自信がない児童や他者の心情理解が難しい児童の言動に注意して丁寧に見守っていく。

②生活指導や思いやりの心情育成を継続し、いじめにつながる言動への早期対応を推進する。また、子どもが安心して関係づくりができる環境を整え、ブレない一貫した指導を意識する。自信のない子や他者の心情理解が難しい子に注視しつつ、「人を傷つけない」という学年ルールの浸透を進める。「いじめ認知件数および解消件数」を校内で共有することを検討する。

③高学年になれば、友だちや保護者には気軽に話すが、先生に話すのは最後という児童が多くなったり、自分で何とか解決しようという児童が増えたりするため、数値が低いのではないかと。いつでも話しやすい学級の雰囲気づくり、信頼関係づくりをより進めるとともに、スクールライフノートの相談機能の活用など、直接は話しにくい児童にも相談しやすい場の設定も必要である。

④道徳の学習で学んだことを、実生活と関連付けて指導していくことがより求められる。単に教材を使っただけの授業で終わらないようにしていく必要がある。

⑤高学年になると、自分が苦手な分野に目がいきやすくなったり、人と比べてしまったりして、自己肯定感が下がる傾向がある。結果だけにとらわれず、がんばっている過程をほめたり友だちのよいところみつけをしたりして、前向きな気持ちで過ごせるような指導や取り組みを進めていく。

⑥教科書を使った座学だけでなく、社会見学やゲストティーチャー、体験学習、キャリア教育などをこれからも積極的に取り入れ、児童が夢や目標を持てるような取り組みを進めていく。

(様式2)

大阪市立矢田東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ① 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(R7:3年0.75・4年0.85・5年0.84・6年0.83より)より0.01以上向上させる。 ② 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(R7:3年0.77・4年0.86・5年0.72・6年0.77より)より0.01以上向上させる。 ③ 小学校学力経年調査の国語と算数の区分Ⅳ(平均正答率7割以下)の児童の割合をいずれの学年も令和7年度(3年66%・4年72%・5年83%・6年74.5%)73.9%より1%以上減少させる。 ④ 小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」という項目に対して、肯定的に答える児童の割合(R7:90.3%)を、1%以上増加させる。 ⑤ 令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査・児童アンケートの「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:91.9%)を92%以上にする。 ⑥ 特に課題と考えられる長座体前屈を、令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子:27.5cm・女子:29.38cm)より5cm伸ばす。	未

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和7年度(3年0.75・4年0.85・5年0.84・6年0.83)より0.01以上向上させる。	未
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	未

指標 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和7年度（3年 0.77・4年 0.86・5年 0.72・6年 0.77）より 0.01 以上向上させる。	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進を行う。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	
指標 児童アンケートや小学校学力経年調査において「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。（友だちの意見を聞いて「わかった」「なるほど」「私とは違う考えだな」と思ったり、それを発表したりできていますか。）」についての、肯定的回答の割合（児:91%・経:90.3%）を90%以上にする。	未
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「矢田東漢字・計算クライミング」の継続実施や学習教材データ配信の活用等を工夫して行い、児童のそれぞれの学年での基礎学力の定着を図る。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	C
指標 「矢田東漢字・計算クライミング週間」で各学年の70%の児童が目標を達成するようにする。1年90% 2年95% 3年64% 4年51% 5年88% 6年80%	
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 年間を通じて様々な運動ができる場の設定を工夫したり、施設設備・教材教具を有効に活用したりして、体力・運動能力の向上を図る。 (5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)	B
指標 児童アンケートや令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合（R7:児91%・全国体力91.9%）を90%以上にする。90%	
取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 全学年で毎学期に、2時間目の休み時間などを活用した業間体育を実施するなど、健康安全活動の充実（体力づくり）を図る。 (5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)	未
指標 1学期に全学年で行っているスポーツテストの結果を分析し、長座体前屈の測定を年間で複数回行い、年度末の記録を年度当初の各学年の全国平均より向上させる。	
取組内容⑦【基本的な方向8 生涯学習の支援】 学級文庫の整備や、教職員が学校図書館司書と連携した読書活動の推進を行い、児童の読書意欲の向上を図る。 (8-2「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づく取組)	C

指標 児童アンケートや小学校学力経年調査の「読書は好きですか。」についての肯定的回答の割合（R 6:児 8 6. 8%・経 7 8. 2%）を 8 5 %以上にする。 8 0 %	
取組内容⑧【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 「令和 8 年度給食における食に関する年間指導計画」に則って、給食指導や栄養指導等を通して「食べ物と健康」のかかわりに対して理解を図り、児童の生活習慣の改善を図る。 (5-2 健康教育・食育の推進)	未
指標 児童アンケートなどで「食べ物のエネルギーになる『黄』、体を作る『赤』、体の調子を整える『緑』は知っていますか？」についての肯定的回答の割合（R 7：8 9 %）を 9 0 %以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①②学校全体として、基礎・基本の学力の定着に課題がある。校内研究としても基礎・基本の学力の定着を主題の一つとして取り組み、校内全体で授業の考え方や行い方を共有している。各学年としては、放課後や休み時間に学習会を設定したり、文章の読み取りの学習に重点を置いたりしている学年もあり、基礎・基本の学習と並行してその力を生かして解決する問題にも取り組むようにしている。また、個に応じたプリントを用意するなど、児童それぞれの学力に応じた内容に取り組む時間も設定し、当該学年までの学習を確実に定着できるようにしている。 ③問題に対する考え方や自分の意見を発表する時間を取るようにしている。「ビブリオバトル」や「学級会」「ディベート」に取り組む学年もあり、自分の意見を伝えたり他者の意見を聞いたりする学習を継続的に行っている。また、授業において、児童それぞれが自分のペースで対話できる環境を設定している。音楽ではリーダーを中心にグループで協力しながら合奏に取り組んだり、理科では予想を立てる際に自分で考えたことを他者と共有する時間を継続的に設けたりしている。しかしながら、自分と他者の意見を比べることや、対話に深まりが出るまでには至っていない。 ④クライミングカードや達成シールなどを活用して意欲的に取り組み、進捗状況の管理も行うことができた。昨年と比べて 1 回に取り組む問題数が少なくなったため、朝学習や授業の始めなどにも取り組みやすくなった。特別支援や日本語指導でも取り組むことができ、学習に課題がある児童も積極的に取り組むことができた。高学年においては、自分で学習を調整する「けてぶれ」の取り組みによって、漢字学習の成果が出ている。しかしながら、クライミングに取り組む児童とそうでない児童に差がある学年もあった。 ⑤運動に対して肯定的な児童は多く、特に高学年では、休み時間や放課後に主体的に外で遊ぶ姿が多く見られる。また、1 年生においては、6 年生が積極的に関わって一緒に遊ぶことで、自然と外へ出て元気に身体を動かすようになってきている。しかしながら、「運動は嫌いではないものの、苦手意識があるために「好きではない」と感じてしまう児童の様子も見受けられる。	

⑥業間体育では、児童が楽しく運動に取り組むことができた。教職員も含め、全員で運動を通してかかわることができた。

⑦低学年では学校生活や様々な活動を楽しんでいる割合が高いが、学年が上がるにつれて割合が低下する傾向がある。全体として読書習慣の定着に課題があり、特に中・高学年では集中力の不足や読書量の個人差が大きい。高学年では図書の時間以外に自主的・積極的に読書をする児童が少なく、文字数の多い小説などを避ける傾向が強い。週 1 回の読書時間の確保や図書館司書と連携した本選びを行うも数値向上には至っておらず、高学年における図書の時間の授業時間割への組み込みに課題がある。

⑧食べ物については子どもたちも興味がある様子が感じられるため、よいアンケート結果になることが予想される。日直などの児童が食事のあいさつをする際に、栄養素の色別に食材を読み上げている学級もあった。

改善点

①②漢字の学習においては、「宿題に取り組む→10分間練習する→漢字テストに取り組む」の学び方で漢字の定着を図る。低学年においても、児童の実態に応じて自分で取り組める（自分で学習を調整する）学習に取り組んでいく。

③話し合うことができている実感はあるが、答えの確認だけになっているため、対話のルールを設定したり、学習環境を柔軟に変更したりする必要がある。

④1年生にとっては国語の内容が難しいため、「ひらがなの書き」など、1学期の児童の実態でも自分で取り組むことができる内容にする。各学年の工夫として、全員が主体的に、確実に取り組み達成感が味わえることができる環境を設定する。学年によっては算数の問題数を増やすことも検討する。

⑤達成感を味わえるように、スモールステップでできることを増やしていくなどの工夫をしたり、積極的に外で遊ぶように日々声掛けをしたりしていく必要がある。

⑥業間体育は教員主導で行うことが多いため、児童自らが考えて実施できるような内容にしていく。中学年で実施している体操カードを全学年で活用できるか検討する。

⑦ひらがなを学習したばかりの1年生は絵を見ることが多いため、2年生では読み聞かせやおすすめ本の紹介を行い、進んで本を手に取りたいとする取り組みを進める。朝読書や読書タイムで活字に触れる機会を増やし、月2回の選書読み聞かせやビブリオバトル、興味の持ちやすい学級図書により多ジャンルの本に親しめるようにする。司書連携や読み聞かせ、隙間時間の声かけで関心を高めるが、学校のみでの習慣化は厳しいため家庭への協力をお願いすることも検討する。全学年への図書時間や週1回の朝読書を設定しつつ、読書通帳の周知とタブレット使用とのバランス調整により読書意欲を高める。

⑧給食週間や栄養指導を通して、実際の給食などから栄養素について考えることができるようにしていく。

(様式2)

大阪市立矢田東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」の項目について、週3回以上と回答する児童の割合を67%以上にする。 ② 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026－2029】」により、毎月の教員の1人当たりの平均時間外勤務時間を20時間以下にする。	未

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 タブレットやノートパソコンなどの ICT 機器の効果的な活用を図り、毎日の授業改善を実践する。 (6-1ICT を活用した教育の推進)		未
指標 小学校学力経年調査の「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」の項目について、「週3回以上」と答える児童の割合をについて67%以上にする。		
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教育活動全体の検証・改善によって教育の質を向上させる。 (7-1 働き方改革の推進)		C
指標 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026－2029】」により、毎月の教員の1人当たりの平均時間外勤務時間を20時間以下にする。 約29時間（7月時点）		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①学年が上がるにつれてタブレット等の活用頻度が上昇しており、操作やツール（PowerPoint、Word 等）への抵抗感も薄れている。しかしながら、1、2年生は、まだ活用にまでは至っていない。専科（音楽・理科）や特別支援学級では、動画・PowerPoint の提示、台風の調べ学習、心の天気入力、デジタルドリルなどで積極的に活用している。		
②7月時点の累計平均時間が約29時間となっており、指標が達成できていない。また、昨年度と比べても5時間ほど増えている。		

改善点
①授業で活用できそうな学習ではタブレットを積極的に使い、子どもたちにとって学習内容の理解につながるツールとして活用していく。また、タブレットを使って音楽づくりをしたり、児童の意見を共有させたりすることも検討していく。
②ゆとりの日の１７：３０セットを意識し、計画的に業務に取り組む。安全管理のため、１７：００以降は職員室で仕事をするよう意識する。